セントラルメディカル倶楽部

先端の検査と「顧問医」を実現する会員制メディカルサポート倶楽部

最新・最先端の検診によって、疾病の多くは予防できる。自身も三十代にがん患者となった医師は、がんはステージ0で見つけ、未病で治す予防医学の実践が重要と力説。その考えをもとに、最先端の検査機器を導入したクリニックを開院。さらに顧問医を中心とする充実した会員制の医療サポート組織を立ち上げた。

高級感がただようセントラルメディカル倶楽部の受付。

宇都宮セントラルクリニック理事／セントラルメディカル倶楽部顧問医

佐藤俊彦（さとうとしひこ）

1960年、福島県生まれ。85年福島県立医科大学卒。同大放射線科に入局し、日本医科大学付属第一病院放射線科助手、獨協医科大学病院放射線科助手、鷲谷病院副院長を経て宇都宮セントラルクリニックを開院。

三十代でがん患者となった体験からクリニックを開院

いまや日本人の二人に一人ががんになる時代――〝がん大国ニッポン〟でがんにかかるリスクを下げるには、「早期検診」「早期発見」「早期治療」が欠かせないといわれる。

長年、放射線科の専門医として検診に関わり、これまで一〇万人を超える画像診断を行ってきた宇都宮セントラルクリニック理事の佐藤俊彦医師は、がんは予防できると訴える。

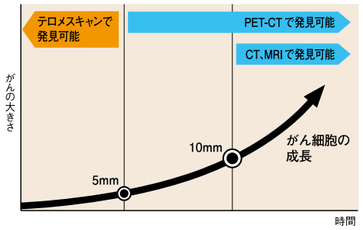
がんのステージの定義は、種類によって異なるが、一般に「ステージⅠ」が早期がんにあたる。がんは発見時のステージが上がるほど、治療の選択肢が狭まり、回復が遅れ、本人や家族の精神的・金銭的な負担が増す病である。

佐藤医師は自身が三十代でがん患者となった。勤務していた大学病院でMRIの実験にかかりきりだったときのこと。自身の作ったMRIプログラムの確認を兼ねてボランティア撮影を行ったところ、甲状腺がんが見つかったのだ。病理検査の結果は、ステージⅢの悪性がんだった。がんは一㌢以上に成長し、頸部リンパ節に転移、一刻も早い手術が必要だった。幸い名医の執刀でがん細胞を取りきり、腕の神経や声帯を傷つけることなく手術は成功。転移、再発もなく、現在に至っている。

佐藤医師は自らの体験を踏まえ、もっと確実にがんを見つけ、がんを叩き、がんを防ぐ方法を考え抜いた。

その結論が極小がん細胞までを見える化できる精密な検査の実施であった。そこに至る経緯は佐藤医師の著書『がんになった医者が書いたあなたのがんは「これ」で9割防げる』（幻冬舎）に詳細に記されている。

その思いを具現化すべく佐藤医師は一九九七年に宇都宮セントラルクリニックを開院。さらに多くの疾患の早期発見とその後のケア実現を目指し、二〇〇三年に会員制のセントラルメディカル倶楽部（以下、CMC）を創設した。



細部が異常化すると「小さながん」ができる。テロメスキャンは5㎜以下のがん細胞を見極め、発見する。

会員制の倶楽部が実現するテーラーメイドの医療サポート

CMCでは、がんだけでなく、脳疾患、心疾患など三大成人病をカバーする「精度の高い検診」「専門医による的確な診断」「日常的なヘルスケア」をコンセプトに掲げている。

「精度の高い検診」を支えているのが、最新・最先端の検査機器の存在だ。

「たとえば最新のがん検診ではMRIやCTに加え、PET-CTやPEM（乳房専用PETマンモグラフィー）による検査があるかどうかが、カギを握ります」と佐藤医師は指摘する。

PET-CT検査は、体に無害なブドウ糖によく似た「18F-FDG」という薬剤を使う。がん細胞がブドウ糖を取り込む性質を利用し、PETカメラで全身くまなく撮影することで、がんを可視化できるのだ。

MRIやCTでは通常、一㌢程度の大きさにならないと見つけられないが、PET-CT検査なら五～七㍉程度のがんでも発見できる。ちなみにこの検査はアルツハイマー病の検知にも有効という。

また乳がんの早期発見に役立つマンモグラフィは乳房を挟み、痛みを伴うので敬遠されがちな検査だったが、最新のPEMであれば、痛みは大幅に軽減され、2㍉程度のがんを発見できるほど精度が高まっている。

加えて「テロメスキャン」という血液検査を行えば、血中に浮遊する、まだがん腫瘍になっていない「血中循環がん細胞」、つまり〝見えないがん〟を見つけることも可能という。

「早期がんなら直ちに適切な治療を行なえば九〇％は治すことができます。『PET-CT』と『テロメスキャン』、女性であれば『PEM』検査を組み合わせれば、ステージ0、がんになる前の未病の段階で、目に見えない『小さながん』を早期発見できます。その段階で、がん細胞を叩けば、がんは予防できる病気なのです」

こうした最新・最先端の検査機器をベースとし、欠かせないのが「的確な診断」や「日常的なヘルケア」を行なう専門医・かかりつけ医の存在である。

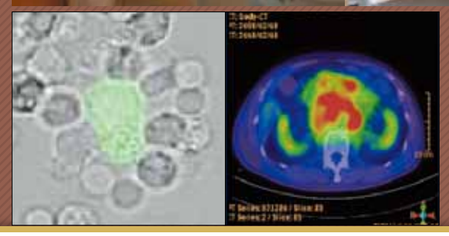
佐藤医師は疾患が明らかになったら、専門医の選択や治療方針を相談できる「顧問医」が必要と語る。アメリカなどでは、顧問医の制度はコンシェルジュ医療、ブティック医療として認知され富裕層を中心に普及している。

会社であれば「顧問弁護士」や「顧問税理士」が必要であるように、健康状態を把握し、予防医療や医療サポートをしてくれる自分専属のドクター、それが「顧問医」である。

CMCではこうした検査を踏まえ「顧問医」を中心に会員一人ひとりにテーラーメイドの医療サポートサービスを提供している。またCMCの会員には宇都宮セントラルクリニックの最先端機器の優先利用による検査、顧問医による健康相談、国内外の医師ネットワーク利用により、治療を施せる最適な医師の紹介など、幅広い治療の選択肢を提供が可能。すでにCMCの会員数は九〇〇を超え、国内では全国規模の組織になりつつある。

最近では検査・診断だけでなく、CMCの検査体制や制度を採り入れたいと視察や研修に訪れる中国の富裕層も増えているという。

宇都宮発、世界基準のメディカルサポート倶楽部がいま国内外から注目を集めているのだ。



右上／日本に2台しかないPEM（乳房専用PETマンモグラフィー）。約2㎜のがんを検知できる。中上／PET検査を可能にするCT。左上／MRI。同院は3T（テスラ）が2台、1.5Tが1台の高精度検査機器を導入。左下／テロメスキャンの検査画像。蛍光発色させる方法で、血中に浮遊している状態でも、がん細胞の有無を検査できる。
右下／PET－CT画像。PET検査とCT画像を融合することで、腫瘍など異常部位を明確に特定できる。

お問い合わせ

宇都宮セントラルクリニック・セントラルメディカル倶楽部

栃木県宇都宮市屋板町561－3
TEL：028－657－7300（アナウンス後②を押して下さい）
お急ぎの場合は、TEL：080－3206－7616まで
http://www.ucc.or.jp/　E-Mail：master@ucc.or.jp
受付時間9：00～18：00（月～土）　9：00～12：00（日）

●セントラルメディカル倶楽部の検査内容／各種ドックのご案内
個人会員、法人会員があり、そのエグゼクティブコースではPET－CT（頸部～大腿部）、PET（アルツハイマー）、脳MR、心臓MR、CT、各種超音波、血液、その他の検査を行う。